

【必修問題 鎖骨の診察・整復法】

問 1. 定型的鎖骨骨折でみられないのはどれか。

(第 28 回)

1. 屈曲転位
2. 延長転位
3. 側方転位
4. 短縮転位

問 2. 鎖骨骨折の坐位整復法で誤っているのはどれか。

(第 29 回)

1. 患者は上肢を下垂位とする。
2. 第 1 助手は後方に位置する。
3. 第 2 助手は患側に位置する。
4. 術者は前方に位置する。

問 3. 小児の鎖骨骨折で正しいのはどれか。

(第 29 回)

1. 転位が大きい。
2. 楔状骨片を生じやすい。
3. 強固な固定が必要である。
4. 変形は漸次矯正される。

問 4. 鎖骨骨折の整復法で第 1 助手の役割はどれか。

(第 30 回)

1. 胸鎖乳突筋の弛緩
2. 短縮転位の除去
3. 遠位骨片の挙上
4. 体幹の把持

問 5. 定型的鎖骨骨折の来所時の肢位で誤っている

はどれか。(第 31 回)

1. 顔面は患側に向けている。
2. 肩幅は減少している。
3. 肩が下垂している。
4. 健側で患側上肢を支えている。

問 6. 鎖骨骨折坐位整復法の助手の役割で誤っている

のはどれか。(第 32 回)

1. 患者の観察
2. 患肢の保持
3. 上方転位の除去
4. 胸を張る姿勢の保持

問 7. 定型的鎖骨骨折で正しいのはどれか。

(第 33 回)

1. 転位は軽度なことが多い。
2. 皮下出血斑は生じにくい。
3. 直達外力による発生が多い。
4. 肩関節運動で疼痛が強くなる。

問 8. 定型的鎖骨骨折の坐位整復法で第 1 助手が行う

肩部の牽引方向はどれか。(第 33 回)

1. 前上方
2. 上内方
3. 後外方
4. 後下方

問 9. 定型的鎖骨骨折の坐位整復法で第 2 助手が行う

のはどれか。(第 33 回)

1. 骨折部に直圧を加える。
2. 患者の顔色の変化をみる。
3. 患者の胸郭を拡大させる。
4. 患側の前腕と手指を保持する。

問 10. 鎖骨骨折の坐位整復法で正しいのはどれか。

(オリジナル問題)

1. 第 2 助手は鎖骨遠位端部を把持する。
2. 肩関節を外転方向に牽引する。
3. 第 1 助手は膝頭を第 4 腰椎付近に当てる。
4. 術者は患者の前方に位置する。

問 11. 定型的鎖骨骨折の特徴で正しいのはどれか。

(オリジナル問題)

1. 整復位の保持する固定は容易である。
2. 小児の骨折では第 3 骨片を生じることが多い。
3. 患側の肩幅は減少してみえる。
4. 直達外力で発生することが多い。

問 12. 定型的鎖骨骨折でみられる姿勢はどれか。

(オリジナル問題)

1. 頭部を健側に向けた姿勢
2. 顔面を健側に向けた姿勢
3. 患肢を挙上させた姿勢
4. 胸郭が拡大した姿勢